Rethink
フォーラム

視点を変えれば、世の中は変わる。

たとえば
半分だけ水の入ったコップを見て、
もう半分しかない、と思うか、
まだ半分もある、と思うか。

視点を変えれば、
世の中の見え方は変わってきます。
当たり前だと思っていたことでも、
違う視点から見つめ直してみると、
新しい発見があることがあります。

Rethinkフォーラムは、
一人では気づけない
新しい視点に気づくことで、
地域活性化のきっかけを見つける場です。

視点を変えれば、世の中が変わる。
地域が変わる。
未来を変える発見は、
意外と身近に
あるのかもしれません。

「Rethinkフォーラム　～視点を変えれば、世の中は変わる。～」（岐阜新聞社主催、岐阜県、岐阜市、岐阜商工会議所後援、Rethink PROJECT協賛）が9月1日、岐阜市の都ホテル岐阜長良川で開かれました。第1部はジャーナリストの堀 潤さんが「地方創生×デジタル実装　先駆事例から考える」と題して、デジタル技術を活用した変革により地方創生の方策などについて講演。第2部は、岐阜市の柴橋正直市長、ご当地タレントのやながせゆっこさんも加わり、「Rethink岐阜　～官民一体の新たなまちづくりin柳ケ瀬～」をテーマに意見を交わしました。

ゲスト

堀（ほり）　潤（じゅん）氏（ジャーナリスト）
演題：地方創生 × デジタル実装
先駆事例から考える

地方創生のキーワードは「変革」

このフォーラムの大きなテーマは「Rethink」です。絶対にこうに違いないと思っていたものが、実は現場をよくよく尋ねて、目撃をして出会いがあると、世界が大きく変わるという経験を重ねてきました。まさにそのようなことが、地方創生につながる大きなキーワードであると感じています。
地域に住んでいながら、実は地域のことをよく見ていないという現実があります。しがらみがあったり、「こんなもんだろう」という思い込みがあったり。その現状をガラッと変えていくような取り組みが進められています。

現代では、DX（デジタルトランスフォーメーション）と言われていますが、何が分かっているとデジタル化が成功するのでしょうか。取材の中で実感するのは、やはり「変革」です。英語で言うところのまさにトランスフォーメーションです。「何を変革すればいいのか」と言うことがしっかりと腑に落ちている現場は、デジタル化が進んでいきます。

今回のテーマを「地方創生×デジタル実装」としました。いま取り組んでいるのは、実態がよく分からないことを取材して映像化し、その映像を基に、外に発信するのではなく、企業や自治体など、まずはグループで共有して自分たちで考える場を作る試み「ジャーナリズム×インナーコミュニケーション」を展開しています。新しい技術を導入することにより、今までとは違う仕組みを地域に根付かせることができます。そのためのデジタル化のあり方を考えています。

★古き良きものがデジタル化の大きなカギ

いま全国各地で、「地方創生×デジタル」の取り組みが行われていますが、地方創生のモデルを見つけ出す先駆者会議を開いたり、成功まで本当に苦労してきたという地域を取材したりしてきました。

その中で、愛媛県松山市の事例では、民間事業者の立場から当事者意識を持って松山の経済活性化と魅力発信に取り組む「まちづくり松山」の加戸慎太郎さんが奮闘してきました。古い慣習や有力企業がある中で、試行錯誤しながらも、最終的には地域の方々の理解を得て変革を進めていきました。その背景には、「盛場」と「郷愁」がありました。自分が育ってきたまちへの愛です。

古き良き商店街の象徴で天敵のような存在と思われていた井上二郎さんと出会い、さまざまな取り組みが新たに始まりました。商店街の儲け（もうけ）が大手企業に吸い取られていく中で、「自分たちの手でまちを作る」という強い思いを持ち、地域のお金は地域に残そうと考えました。地域振興策を検討する中で、商店街のキャッシュレス決済「まちペイ」を独自で作りました。約2000の商店が導入し、会員数は７万人で、効率的な運用が可能になりました。まさにデジタルの技術を実装し、複数の商店街に一つにまとめあげました。

取り組みの中で、このエリアは儲かるけれど、違うエリアは沈んでいくといったアンバランスがあってはよくないということで、データを共有し、同じように利益を分かち合えるような仕組みを作りました。「自分ごとになって全員がやる。円卓になって磁石が生まれる」という信念を持ち、地域への思いがあるからこそ、デジタルを通じて、まちを変えていった成功事例です。

「デジタル化は何のために変革をするのか」。新しいことや改革をしようと聞くと、これまでにない全く違う価値観のもとを作り出すようなイメージがありますが、ここはまさにRethink。デジタルだからこそ、古き良き大切にしてきたものが1番大きなカギを握っているということが、地方創生の現場を尋ねてみると本当に実感します。1560年創業の鍋屋バイテック会社の岡本友二郎社長も「私たちはこの風土があるから、ここで新しいことができます。だからこそ、従業員にもこの地域が生んだ文化を知ってほしいと考え、会社内に美術館があります」と話されていました。住んでいると地域の良さや文化に目をそらしがちですが、実はそこが逆浸透膜になっていて、いい試みだなと感じました。これからもこのような先進事例を共有していきたいと考えています。

プロフィール●堀 潤（ほり・じゅん）
1977年兵庫県生まれ。株式会社8bitNew代表/わたしをことばにする研究所代表。立教大学卒業後、2001年NHK入局。キャスターとして報道番組を担当。現在は、TOKYO MX「堀潤モーニングFLAG」のMCに加えて、読売テレビ「ウェークアップ」、ABEMA「ABEMA Prime」などに出演し、国内外の取材や執筆など多岐に渡り活動中。早稲田大学グローバル科学知融合研究所招聘研究員に就任し、SDGsフロンティアラボで官民の枠を超えたイベントや情報発信を企画している。

テーマ「Rethink岐阜 ～官民一体の新たなまちづくり in 柳ケ瀬～」

パネルディスカッション出演者　堀 潤氏（ジャーナリスト）、柴橋 正直氏（岐阜市長）、やながせ ゆっこ氏（岐阜ご当地タレント）

モデレーター　加藤 義久氏（ぎふチャンアナウンサー）

★地域を「面」で捉えて活性化

加藤　これまでの柳ケ瀬の取り組みについて聞かせてください。
柴橋　リノベーションまちづくりと再開発を車の両輪のように進めてきました。新しい動きが出てきて、求心力がもう一回生まれてきています。また、リノベーションスクールを開催し、化学変化が起きてきています。
堀　先駆者会議は、地方創生のモデルを見つけ出そうという地域の成功事例ですが、まさに凝縮されている現場だと感じました。
ゆっこ　20代や30代から見ると、柳ケ瀬の全盛期を知らないからこそ、まさにRethinkで、「初めて来たけど懐かしい」「非日常な感じがする」というように、今の柳ケ瀬が面白いと感じています。
柴橋　今年３月にできた柳ケ瀬グラッスル35は、エリア全体を面として捉え、にぎわいや活性化を考えました。そして、セントラルパーク金公園をリノベーションして人が集まる公園に変えました。回遊性が生まれることに加え、子どものころから足を運ぶことにより、原体験ができ、シビックプライドとなり、岐阜のまちを愛してもらうことにつながります。
堀　各地で「面で勝つ」というのがキーワードになっています。お互いの情報を共有し合い、みんなで勝ち上がっていこうという流れです。
柴橋　データマーケティングでデータをとり、商店街に何が最適なのかというエリアマネジメントは必要です。面でみんながハッピーになれるようにするっていうところまでいくと、地域は良くなると考えています。

★回遊性を高め、市民のウェルビーイングを広げる

加藤　次世代につながる心豊かになる柳ケ瀬のまちづくりについて伺っていきます。
ゆっこ　旧長崎屋の跡地にできる柳ケ瀬広場に期待しています。いま子育てをしていますが、ふらっと行けば、悩みを話したり、分かち合えたり、暖かい広場になるとうれしいです。
柴橋　キーワードは滞在型です。例えば、みんなの森ぎふメディアコスモスは滞在型図書館。セントラルパーク金公園も同じです。ゆったりとした幸せな時間をまちの中で滞在して過ごしてほしいと思っています。そして、この秋からも新たな仕掛けをしていきます。1つは回遊性。公共交通として、自動運転の電気バスを毎日５年間運行します。２つ目は道路空間の利活用。ヒントは金公園にあります。1つの公共空間として、使い方が変わることによって人が集まり、市民のウェルビーイングの世界が広がります。道路空間が変わると、岐阜市のセンターゾーン全てが金公園のようになります。市民の方が自由に過ごせる空間をまちの中につくりたい。それは人中心のまちづくりであり、人が回遊することで、次は沿道が変わり、まちそのものが変わっていきます。
堀　建築で有名な安藤忠雄さんが「公共とは声が聞こえてくる場所」と話されていました。その中から、にぎわいやイノベーティブな空間を作り出していくんだろうと感じます。また、ウェルビーイングは、GDPの対になる言葉。もっと一人一人が豊かに暮らせるように、いろんな指標を使っていけばいいというのが、世界の大きな潮流です。岐阜は世界に先駆けて、GDPではない指標でまちの豊かさを表現し始めようとしていると思うと、とても楽しみです。

★人口減少を乗り越えられる岐阜市に一

加藤　最後に一言ずつメッセージを。
ゆっこ　今でも300店舗以上が残っています。すごくヴィンテージ感あふれるニッチなお店がいっぱいあります。SNSにアップすれば、世界中に伝わる時代です。めぐりめぐって将来の柳ケ瀬を活性化させ、岐阜市全体が盛り上がってくると思います。
柴橋　高度成長期以来の岐阜市の大変革時代に入っています。2030年代以降の人口減少時代を乗り越えられるように、岐阜市の力をしっかりここで蓄えたいというのが、「岐阜を動かす」という1番の思いです。どんどん見える化して、市民や企業の皆さんに共感していただき、語り合いながら、思いを結集していきたいです。
堀　柳ケ瀬を取材したのは7年前でしたが、今回、全然違うまちになっていて、変化を実感しました。思い起こせば、最先端のことをやってきたからこそ、その技術が受け継がれて今も新しい技術を持っているのが最先端の岐阜です。楽しみにしています。
加藤　これからの柳ケ瀬を含む中心市街地でのさらなる官民が連携したまちづくりに大いに期待します。

主催／岐阜新聞社　後援／岐阜県、岐阜市、岐阜商工会議所　協賛／Rethink PROJECT

Rethinkフォーラムホームページ　https://rethink-pjt.jp/forum/index.html
※Rethink PROJECTはJTがパートナーシップを基盤に取り組む地域社会への貢献活動の総称です

Rethinkフォーラム　検索